至学館大学
SHIGAKKAN UNIVERSITY

至学館大学大学院
SHIGAKKAN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF WELLNESS

教育方針
Educational Policy

学位授与方針
Diploma policy
教育課程編成･実施方針
Curriculum policy
入学者受入方針
Admission policy

2025

目　次
Contents

学校法人至学館の建学の理念及び至学館大学の教育理念と教育目標等

Ⅰ 学校法人至学館の建学の理念 …… 1

Ⅱ 至学館大学の教育理念と教育目標 …… 1

Ⅲ 学部・学科の教育目標とディプロマ・ポリシー …… 2

　A 教育目標 …… 2

　B ディプロマ・ポリシー（学位授与方針） …… 2

Ⅳ 学部・学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針） …… 4

Ⅴ 大学及び学部・学科のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針） …… 13

大学院健康科学研究科の
教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、
アドミッション・ポリシー等について

Ⅰ 建学の理念・教育理念・教育目標 …… 18

Ⅱ ディプロマ・ポリシー（学位授与方針） …… 18

Ⅲ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針） …… 18

Ⅳ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針） …… 19

学校法人至学館の建学の理念及び至学館大学の教育理念と教育目標等

Ⅰ 学校法人至学館の建学の理念

本学園の建学の理念は『**人間力の涵養**』である。

Ⅱ 至学館大学の教育理念と教育目標

至学館大学の教育理念は『**人間力の形成**』である。
本学における「**人間力**」とは、「健康力」、「知的視力」、「社会力」、「自己形成力」及び「当事者力」の 5 つの力で構成されるものと定義し、これら 5 つの力を乗じ、総合的に応用・展開することができてはじめて真の「人間力」であるものと考える。
すなわち、『真理と正義にもとづく価値観と倫理観をもち、広い視野と科学的な知識にもとづいた自己実現と人々の幸福のために寄与・貢献できる**人間力の形成**』である。
具体的には、学生自らが主体的に行動する機会を数多く設け、自らの大学は自分たちでつくる「名実ともに学生が主人公」の大学づくりを目指し、『主体的な発想のもと、心身ともに健全でたくましく、「生きる力」、「行動力」、「仲間愛」に溢れ、そして諦めないで何ごとにも「チャレンジする精神」をもった学生を育てる』ことを本学の『**教育目標**』とする。

健康力

「**健康力**」とは、人間として行動するあらゆる場面において心身とともに社会（環境）的な健康について管理・保全ができる力をいう。
心身ともに健全な人間の形成を図るものである。

知的視力

「**知的視力**」とは、広い視野でものごとの本質を動的かつ構造的に深く捉え、的確に見極めることができる総合的な判断力をいう。
鋭い着眼力と論理的知性をもった説得力、リーダーシップなどを備えた実行力のある人間の形成を図るものである。

社会力

「**社会力**」とは、人と人のつながりの中でより良い社会を形成し、その運営や改善・改革に積極的に関わることができる力をいう。
主体的により良い社会をつくっていくためのコミュニケーション能力や統合力のある人間の形成を図るものである。

自己形成力

「**自己形成力**」とは、健全な社会人を目指して自己を磨き、積極的なチャレンジ精神と向上心をもってより良い社会をつくろうとする力をいう。
人間としての生き方を自覚し、主体性をもった学習や生活による目標の実現を目指して、常に自分自身を成長させることのできる人間の形成を図るものである。

当事者力

「**当事者力**」とは、何事も自分自身と関連づけ、状況を把握し、主体的に展開することができる力をいう。さまざまな事象を自らの問題として捉え、能動的な思考と行動をとることができる人間の形成を図るものである。

Ⅲ 学部・学科の教育目標とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

A 教育目標

健康科学部

学生の潜在能力を引き出すような個性的で実学的な教育・研究を行うことによって、『豊かな教養とともに、各学科のそれぞれの分野において深い専門知識と実践力を身につけ、健全な心身に裏付けられた人間力をもって、人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる人間の育成』である。

健康スポーツ科学科

『健康の保持・増進のための運動・スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

体育科学科

『健康の保持・増進を基礎とし、青少年期を中心とした競技スポーツ活動を安全で科学的にサポートするための指導者として豊かな人間性と高度な専門知識と実践力を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

栄養科学科

『健康づくりのための栄養指導者として豊かな人間性と栄養・運動に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

こども健康・教育学科

『心身ともに健全な子どもを育てるための指導者・支援者として豊かな人間性と子どもの成長・発達に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

B ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

健康科学部

学士の学位は、大学学則の定めるところにより所定の単位を修得し、卒業した者に授与する（学位規程第 3 条）。なお、卒業の判定においては、各学科における所定の単位と学位授与要件のほかに、健康科学部として以下の要件を満たしていることが必要である。

1. 本学が定義する「真の人間力」、すなわち「健康力」、「知的視力」、「社会力」、「自己形成力」及び「当事者力」の 5 つの力を総合的に応用・展開できる力を身につけている。
2. 心身ともに健全でたくましく、「生きる力」、「行動力」、「仲間愛」に溢れ、そして、何ごとにも「チャレンジする精神」をもって、社会に貢献できる力を身につけている。
3. 豊かな教養と高度な専門知識を有し、かつ多様な実践や経験を通して自らの知識・技能を実社会において応用・展開できる力を身につけている。
4. 国際化に対応するため、英語若しくは中国語、韓国語等の基礎的な語学力を身につけている。
5. 科学的思考・論理的な展開・探究能力・表現技術・コミュニケーション能力などを総合的に身につけている。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士(健康スポーツ科学)の学位を授与する。

1. 身体の構造と機能や健康づくりに関する専門知識を身につけ、科学的に健康運動やスポーツ活動を指導することができる。
2. 年齢、性別、その他の個人的な特性を考慮して、健康運動やスポーツ活動を指導することができる。
3. コンディショニングや身体ケア等の専門技能を身につけ、健康運動やスポーツ活動を指導することができる。
4. 運動・スポーツの情報収集に関する基礎知識を身につけ、関連産業や事業(イベント等)を指導・支援することができる。
5. 学校体育や健康づくりに必要な実技種目の指導法と技能を身につけ、実践の場で活用することができる。

体育科学科

体育科学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士(体育科学)の学位を授与する。

1. 身体の構造と機能や競技力向上に関する専門知識を身につけ、科学的にスポーツ競技活動を指導することができる。
2. 青少年期の身体的・精神的な特性に関する専門知識を身につけ、スポーツ競技活動を安全・安心に配慮して指導することができる。
3. 身体ケアやコンディショニング等の専門知識・技能を身につけ、スポーツ競技活動を指導することができる。
4. 学校体育に必要な実技種目の指導法と技能を身につけ、実践の場で活用することができる。

栄養科学科

栄養科学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士(栄養科学)の学位を授与する。

1. 栄養科学に関する専門知識を身につけ、科学的な視点から食と健康に関わる課題を探求し、問題解決のために取り組むことができる。
2. 栄養と運動についての幅広い専門知識を身につけ、人々の健康づくりに寄与することができる。
3. ライフステージごとの栄養管理から各種疾病の予防・治療に至るまでの食と栄養に関わる専門的な知識を身につけ、栄養士又は管理栄養士として人々の健康づくりに寄与することができる。

こども健康・教育学科

こども健康・教育学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士(こども学)の学位を授与する。

1. 乳・幼児期から青少年期に至る子どもの成長・発達を系統的に理解し、各発達段階のつながりを踏まえて指導・支援することができる。
2. 子どもを取り巻く社会及び環境に関心をもち、その向上・改善に必要な知識を獲得し、自ら行動することができる。
3. 乳・幼児期から青少年期に至る子どもの各発達段階に必要な遊びや文化、または、創造性と楽しさを生み出すアミューズメント事業について、その環境を適切に整え、子どもの創造性の発達に寄与・貢献することができる。
4. 乳・幼児期から青少年期に至る子どもの適切な運動と栄養について理解し、一人ひとりの子どもが抱える課題を捉えるだけではなく、地域全体の子どもの健全な発達についても指導・支援することができる。
5. 発達障害を含めた多様な子どもを適切に支援するための知識と技術を身につけ、指導・支援することができる。

Ⅳ 学部・学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

健康科学部

健康科学部のカリキュラムは、至学館大学の教育理念・目標にもとづき、健全な人間としての価値観・倫理観・社会性等の豊かで視野の広い人間力を身につけるための現代教養科目と、専門知識や技能を身につけるための専門教育科目を以下のような方針のもとに編成する。

現代教養科目

現代教養科目としては、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間力を涵養するための科目を、以下のように配置する。

初年次教育として、学生のモチベーション、リテンション、及びスタディ・スキルの向上を図るための基礎教養科目を設置する。

将来への見通しをもって創造的で積極的に社会に寄与・貢献するための「人間力」を形成するため、広範で多様な考え方と基本的な知識・技能を獲得するための総合的な教養科目を設置する。

国際化に対応するため、特に英語コミュニケーション能力の向上を目指して、個に合わせた習熟度別・目的別の英語教育科目を設置する。

情報教育、メディア・リテラシーの強化を目的として、個に合わせた習熟度別の情報教育科目を設置する。

学年進行による学生のスキル向上や意識レベルの向上に合わせて学習できるようにするため、いわゆる「くさび型」に配置する。

専門教育科目

専門教育科目としては、各学科の教育目標と同時にそれぞれのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を具現化するために特色ある授業科目を体系的に設置する。加えて、学部の柱となる「健康科学」に関しての基礎知識を身につけさせるために学部共通科目を設置する。また、いずれの学科も講義による専門知識の修得のみでなく、それを実際に応用・展開できるようにするため、演習・実習・実技・実験科目等の実践的な科目をできるだけ豊富に設置する。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、専門教育科目として以下の 9 つの科目群を体系的に配置する。低学年においては、少人数教育により学生個々の学習状況を把握するとともに、教養科目と専門教育科目の連関を良くするために専門基礎演習科目を設置する。体育、スポーツ、健康運動の実践的な指導力の養成にあたっては、講義科目による基本的な知識の習得と並行して指導法を主な内容とした実技科目を配置するとともに、関連する演習や実習科目についても適時配置する。

また、各学生の将来設計に合わせて自らが希望・選択する分野に向かって、より専門的で効果的な履修が行えるように「スポーツコーチングコース」、「ヘルスエクササイズコース」及び「スポーツプロデュースコース」の 3 つの履修モデルコースを設定する。

科目群

健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群。

健康社会学

高齢者や障がい者等に対する社会福祉分野、情報を発信するメディア関連の分野、健康やスポーツの競技会・イベント等を企画・運営する分野など、健康づくりやスポーツ活動を支援するために必要な知識や社会状況を理解し、それに対応する力を身につけるための科目群。

栄養学

健康の保持・増進に必要な栄養学の基礎知識を修得するとともに、スポーツと栄養・食事に関する知識と技能を修得するための科目群。

保健・衛生学

障がい児を含めて小児から成人までの発育・発達、老化に合わせ、科学的な情報を的確に収集・処理して個人や集団の健康を保持・増進するための保健・衛生に関する知識を修得し、かつ安全や救急・救命に関する知識と技能を修得して、体育・スポーツ活動の現場で安全で効果的な指導が展開できるようにするための科目群。

スポーツ科学

スポーツ指導に関する歴史や文化的背景、スポーツの役割や原理、スポーツに関する法律等を理解するとともに、スポーツを通じた倫理観を育成し、スポーツ関連施設やそれを運営する行政機関を含めた社会的構造や集団行動におけるマネジメント能力を身につけ、スポーツ活動における心理学的、自然科学的知識をもとに科学的な指導ができるようにするための科目群。

スポーツ医学

身体の構造や機能に関する知識と、運動による生理学的反応や運動が身体に及ぼす影響等に関しての知識を修得するとともに、スポーツ障害に関する医学的知識と怪我や疲労に対処するための手技・手法を身につけるための科目群。

運動学

競技スポーツ、学校体育、野外活動等に関する「運動の概念」や「スポーツ種目別特性」を理解し、体育・スポーツ活動の目的に合わせた実施内容やトレーニング方法に関する知識と実践的な指導スキルを修得するための科目群。

体育実技・指導法

学校体育における実技指導、一般社会における健康運動指導、野外活動の指導、スポーツ活動の指導における実践力を高めるとともに、そのために必要となる個々人に合わせた指導法を工夫・展開する力を身につけるための科目群。

専門演習・研究

低学年では、専門分野における広範で多様な基礎演習を行って健康やスポーツに関する興味・関心を高め、高学年では、より興味・関心をもつ専門的な分野に分かれて研究や演習を行うことにより、学生個々の専門性とその応用力をさらに高めるための科目群。

その他

科学の進歩や社会情勢の変化によって生み出される新しい知識や技能を取り扱う科目や、教員免許（中学校・高等学校教諭〈保健体育〉）を取得するための科目群、その他、ほかの科目群で得た知識を応用又は補完するために必要な科目や各種資格を取得するための科目群。

専修コースの設置

スポーツコーチングコース

体育・スポーツ分野でスポーツ選手の指導者を志す人のために、スポーツ選手の育成を科学的指導によって実現するための高度で専門的な知識と指導力を修得するためのコース。

ヘルスエクササイズコース

生涯を通じた健康の保持・増進や今日的な健康問題を解消する健康運動指導のエキスパートを志す人のために、幼児から高齢者に至る各年代の適切な健康づくり運動に関する高度で専門的な知識と技能を修得するためのコース。

スポーツプロデュースコース

運動・スポーツ施設の運営や環境整備、スポーツ関連のメディア発信、スポーツイベントの企画・運営等、将来、運動・スポーツ活動のプロデューサーを志す人のために、年齢、性別及び障がいの有無等を考慮してさまざまな人の運動・スポーツを側面からサポートするための専門知識と技能を修得するためのコース。

体育科学科

体育科学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、「専門教育科目」として以下の 10 の科目群を体系的に配置する。低学年においては、少人数教育により学生個々の学習状況を把握するとともに、教養科目と専門教育科目の連関を良くするために専門基礎演習科目を設置する。青少年期における体育・スポーツ活動と専門的な競技スポーツ活動の指導、及びスポーツ活動における障害の予防・対処方法を身につけるための専門的で総合的な授業科目は、講義科目による基礎的な知識の習得と並行して指導法を主な内容とする実技科目を展開するとともに、関連する演習・実習科目を体系的・順次的に配置する。

また、各学生の将来設計に合わせて自らが希望・選択する分野に向かって、より専門的で効果的な履修が行えるように**「競技スポーツコース」**、**「トレーナーコース」**及び**「スポーツ教育コース」**の３つの**履修モデルコース**を設定する。

科目群

健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群を配置する。

発育発達

青少年期の心身の発達・成長の過程を学び、体育・スポーツにおける配慮事項を理解させるとともに、学校現場で必要な心身の保健の知識を修得するための科目群。

スポーツ科学

スポーツ指導に関する歴史や文化的背景、スポーツの役割や原理、スポーツに関する法律等を理解するとともに、スポーツを通じた倫理観を育成し、スポーツ関連施設やそれを運営する行政機関を含めた社会的構造や集団行動におけるマネジメント能力を身につけ、スポーツ活動における心理学的、自然科学的知識をもとに科学的な指導ができるようにするための科目群。

スポーツ医学

身体の構造や機能に関する知識と、運動による生理学的反応や運動が身体に及ぼす影響等に関しての知識を修得するとともに、スポーツ環境や心身のコンディショニングに関する医学的知識を身につけるための科目群。

スポーツ障害

安全・救急に必要な基礎的な応急処置や体育・スポーツ活動あるいはトレーナーとして競技スポーツ活動で発生しやすい障害の予防や障害発生時の対処・処置法等に関する知識と技能を身につけるための科目群。

競技スポーツ

競技スポーツの歴史・組織・運営・ルール等に関する知識とスポーツ現場で起こる人間関係や禁止薬物等の諸問題への対応に関する知識及びセカンドキャリア（引退後の進路）に関する知識・心得を身につけるための科目群。

体育実技・指導法

学校体育における実技指導、競技スポーツ活動の指導における実践力を高めるとともに、そのために必要となる個々人に合わせた指導法を工夫・展開する力を身につけるための科目群。

トレーナー演習・実習

体育・スポーツ活動及び競技スポーツ活動におけるトレーナーとして、より実践力を高めるための演習・実習科目を配置する。

専門演習・研究

低学年では、専門分野における広範で多様な基礎演習を行って健康やスポーツに関する興味・関心を高め、高学年では、より興味・関心をもつ専門的な分野に分かれて研究や演習を行うことにより、学生個々の専門性とその応用力をさらに高めるための科目群を配置する。

その他、の科目群として資格取得に必要な授業科目を開設する。

履修モデルコース

競技スポーツコース

主に競技力の向上とともに、安全・安心に配慮しつつ競技スポーツ選手をより高度なレベルに育成するためのトレーニング法及び指導法に関する高度な専門知識・技能と実践力を身につけるためのコース。

トレーナーコース

主にスポーツ傷害の予防・処置・リハビリ等の身体ケアや、スポーツ選手の効果的なトレーニングを指導するための高度な専門知識・技能と実践力を身につけるためのコース。

スポーツ教育コース

中学校や高等学校の保健体育科教諭や部活動の指導者として、安全・安心なスポーツ教育を行うことによりこどもたちの健全な成長を促し、体育・スポーツを通じて個々の競技力の向上を図るための専門知識・技能と実践力を身につけるためのコース。

栄養科学科

栄養科学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、専門教育科目として以下の 13 の科目群を体系的に配置する。なお、低学年においては、少人数教育により学生個々の学習状況を把握するとともに、教養科目と専門教育科目の体系的な連携を促進する観点から専門基礎演習科目を設置する。

専門教育科目としては、人間の営みを食物（栄養）と健康の観点から科学的に捉えることを基本とし、健康の保持・増進と疾病（特に生活習慣病）の予防を目的とした栄養学や、傷病者に対する栄養指導を目的とした栄養学を学ぶとともに、適切な栄養アセスメントやそれにもとづく栄養ケアプランの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができ、かつ運動指導も可能な健康指導者（管理栄養士）を養成するためのカリキュラムを講義、実験、実習及び演習科目を組み合わせて体系的に編成する。

また、スポーツ栄養学や健康運動学に関する授業科目も配置して健康科学部栄養科学科としてのカリキュラムの特色化を図る。

科目群

健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群。

栄養学

栄養とは何か、その意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病予防・治療における栄養素の役割を消化吸収、体内動態、及び代謝調節の観点から理解する。また、年齢、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（含栄養アセスメント）についての専門的な知識を修得するとともに、実践力を身につけるための科目群。

また、栄養と運動・スポーツとの関わりについても理解し、対象者の特性や目的（健康づくり、競技力向上など）に応じた、栄養ケアプラン及び運動プログラムの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについての知識を修得するとともに、実践力を身につけるための科目群でもある。

食品学・調理学

食品中に含まれる各種成分（栄養成分、嗜好成分、機能性成分等）についての基礎的な知識とともに、食品群別及び食品毎の栄養特性や調理・加工等による変化、並びに実践に即した調理・加工技術等を修得するための科目群。

保健・衛生学

人々の健康の保持・増進と社会及び環境との関わりを理解するために必要な社会的課題としての保健・医療・福祉等について、基礎知識並びに環境因子について理解する。

また、社会的諸制度としての衛生行政、衛生法規、地域保健対策等について理解するとともに、食品の表示や食品衛生に関する基礎的な知識と実践力を身につけるための科目群。

解剖生理・生化学

人体の構造と機能について系統的に理解するとともに、生体を構成する物質（生体分子）の構造、機能、動態を医学・生化学的に理解し、ヒトの身体の仕組みや働きについて基礎的な知識を修得するための科目群。

病態学・臨床医学

栄養・食生活に関連する疾病などの成因、病態生理、症候と診断（病態評価）、治療法について学習し、それらを人体の構造と機能に関連づけて説明できるようにするための科目群。

臨床栄養学

傷病者の病態や栄養状態にもとづき、適切な栄養マネジメントを行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給計画、栄養教育などが実践できるようにするための科目群。

公衆栄養学

地域や職域等における健康・栄養問題とそれを取り巻くさまざまな要因に関する情報を収集・分析する力を身につけるとともに、あらゆる健康・栄養問題を抱えている人に対しての栄養ケアプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる能力を養うための科目群。

栄養教育

個別又は集団の健康・栄養状態、食行動、食環境等の評価・判定にもとづいた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする方法を学び、実践的に展開できる能力を身につけるための科目群。

給食経営管理

特定多数の人々の健康状態・栄養状態の改善、維持・向上、QOL の向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステム及びマネジメントについて、経営管理の理論にもとづいて理解し、それを実践できるようにするための科目群。

健康運動学

運動による生理学的反応や運動が身体に及ぼす影響等に関しての知識を修得するとともに、健康づくりのための運動処方等についての実践力を身につけるための科目群。

臨地実習

実践活動の場（病院その他の施設）における課題発見と解決をとおして、栄養評価・判定にもとづく適切なマネジメントを行うために必要な専門知識と技術の統合を図るための実習。

演習・研究

低学年では、専門分野に関する広範で多様な基礎演習を行って食と健康に関する興味・関心を高め、高学年では、修得した栄養科学の知識をもとに、応用力、実践力、科学的思考力、及び自己研鑽力を身につけるための科目群。

その他

栄養教諭や健康運動実践指導者資格取得に必要な科目群。

こども健康・教育学科

こども健康・教育学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、専門教育科目として以下の７つの科目群を体系的に配置する。

心身ともに健全な子どもを育てるための指導者・支援者として必要な能力の養成にあたっては、各科目群において、講義及び演習により基本的な知識と実践力の修得を図り、それと同時に「こども学」の科目群を中心に、子どもや指導者・支援者と直接関わる機会ももつことで、学修成果の統合を図る。さらに、指導者・支援者として求められる人間力の定着を図るための実習科目を適切に配置する。

また、学生が自ら希望・選択する分野に向けてより専門的に履修が行えるよう「保育・初等教育コース」、「初等・中等教育コース」、「こどもアミューズメントコース」の３つのコースを設定する。

科目群

健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群。

こども学

本科目群は、その他の関連する授業科目を学習していくための出発点であると同時に集約点としても位置づけ、学外実習・実践研究等を取り入れながら子どもの成長・発達に関する専門的な知識とそれにもとづく実践力を身につけるための科目群。

こころとからだ

乳・幼児期から青少年期に至る子どもの成長・発達の特徴を理解するとともに、心身の健康を保つために必要な理論と実践を系統的に学修し、発達段階に応じて指導・支援を行う専門的な方法を身につけるための科目群。

社会と環境

子どもを取り巻く社会と環境についての現状とこれからの在り方について学修するとともに、自らがそれらの改善に向けて行動できる力を身につけるための科目群。

遊び・文化・アミューズメント

乳・幼児期から青少年期に至る子どもの遊び・文化・アミューズメントに関する活動や事業の企画・制作・支援に必要な知識を身につけるとともに、子どもの創造性と創作する楽しみを支援する力を身につけるための科目群。

運動と栄養

子どもの心身の健康とその健全な発達を保障するために必要な運動と栄養について理解し、一人ひとりの子どもが抱える課題に対応して、また、地域全体の子どもの健全な発達についての指導・支援に必要な専門的な知識を修得するための科目群。

発達・教育支援

発達障害など、個々に合わせた配慮を要する子どもが多様化していく中で、一人ひとりの子どもの状況を見極め、適切に支援するための知識と技術に関する専門的な知識を学修するための科目群。

その他

保育士資格や教員免許（幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭〈保健体育〉）取得に必要な科目群。

履修モデルコース

保育・初等教育コース

乳・幼児期から児童期の子どもを対象に、健全な発育・発達を促す指導者・支援者を目指すコース 。

初等・中等教育コース

乳・幼児期における発育・発達を踏まえて、児童期から青少年期の子どもを対象に、健全な発達・成長を促す指導者・支援者を目指すコース。

こどもアミューズメントコース

子どもの発育・発達についての知識と適切な支援・指導の技能を獲得し、テーマパーク、アミューズメント施設等での事業を企画立案・運営する力を身につけるコース。

V 大学及び学部・学科のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針　）

大学

至学館大学は、「健康力」、「知的視力」、「社会力」、「自己形成力」及び「当事者力」の５つの力を総合して応用・展開できる『人間力の形成』を教育理念としています。すなわち、『真理と正義にもとづく価値観と倫理観をもち、広い視野と科学的な知識にもとづいた自己実現と人々の幸福のために寄与・貢献できる人間力の形成』です。
具体的には、『主体的な発想のもと、心身ともに健全でたくましく、「生きる力」、「行動力」、「仲間愛」に溢れ、そして諦めないで何ごとにも「チャレンジする精神」をもった学生をひとりでも多く育てる』ことを教育目標としています。
本学では、このような教育理念と教育目標を理解した上で、常に主体的に学び、何事にも積極的にチャレンジしようとする探求心旺盛な人の入学を望んでいます。

健康科学部

健康科学部は、『豊かな教養とともに、各学科のそれぞれの分野における深い専門知識と実践力を身につけ、健全な心身に裏付けられた人間力をもって、人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる人間の育成』を教育目標としています。
そのため、各学科ではそれぞれの専門的な知識を修得するのみならず、豊富な実学的科目（実験、実習、実技、演習等）を置いて、できるだけ実践力を身につけるための特色ある教育を展開しています。
健康科学部では、将来、人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献したいという強い志のある人の入学を望んでいます。
学部で学ぶにあたっては、高等学校で文系・理系を問わず多くの科目を広く学び、履修したすべての教科の基礎学力を身につけておくことを望みます。

健康スポーツ科学科

教育の目標と特色および求める人間像

健康スポーツ科学科は、『健康の保持・増進のための運動・スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』を教育目標としています。
また、本学科は、中学校や高等学校教諭（保健体育）の免許取得課程や健康運動・障害者スポーツ・専門スポーツ等の各種指導者資格を取得する課程を有しています。
これらの課程では、学校や各種施設及び地域におけるスポーツ・健康運動等の指導・運営に関する高度な専門知識とともに、より効果的で科学的な指導を行うための実践力が身につくような特色ある教育を展開しています。
そのため、健康スポーツ科学科では強い目的意識のもとに次のような志のある人を求めています。

1. 学校体育や競技スポーツに関心をもち、将来、体育・スポーツの分野における専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かな指導者を目指す人。
2. 生涯を通じた健康の保持・増進や今日的な健康問題に関心をもち、将来、健康運動指導に関する専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かなエキスパートを目指す人。

3 運動・スポーツ施設の運営や環境整備、メディア発信、イベント企画等に関心をもち、将来、運動・スポーツ活動を側面からサポートするための専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かなプロデューサーを目指す人。

受験生に求める学修内容と入試における評価観点

本学科で学ぶにあたっては、高等学校での授業や課外活動のみならず、日常生活においても健康づくり・体育・スポーツ活動の指導や運営に関心を高めておくことを望みます。
入学試験では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、以下のような観点で評価します。

1 知識・技能

健康・スポーツに関連する分野において専門的に学修するためには、高等学校の教育課程において幅広く学んでいることが重要です。
入学試験では、特に健康・スポーツに関連する分野で学ぶための基礎となる国語、英語、数学および生物・化学の基礎知識や体育・スポーツの技能がどれだけ身に付いているかによって判定します。

2 思考力・判断力・表現力

健康・スポーツに関連する分野の指導や支援等を効果的に行うためには、選手や健康運動実践者等の心身の状態を考え、的確な指導法やトレーニング法等を判断し、それを適切に表現して伝える力が重要です。
入学試験では、健康の保持・増進、競技力の向上、スポーツの振興等における活動を行う上で必要な思考・判断・表現力等を修得するための基礎的な能力がどれだけ身についているかによって判定します。

3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

健康・スポーツの指導者や支援者として社会に寄与・貢献するためには、自らがスポーツ活動を経験しているか、あるいは指導していることが重要です。
入学試験では、運動能力・技能の測定や指導法につながる専門知識を積極的に学ぶ姿勢や心構えがあるかどうかによって判定します。

体育科学科

教育の目標と特色および求める人間像

体育科学科は、『健康の保持・増進を基礎とし、青少年期を中心とした競技スポーツ活動を安全で科学的にサポートするための指導者として豊かな人間性と高度な専門知識と実践力を身につけ、人々の健康実現に寄与できる人間力の育成』を教育目標としています。
そのため、これらの教育目標を理解し、強い目的意識のもとに主体的に学び、次のような志のある人を求めています。

1. 競技スポーツ活動に関心をもち、安全で科学的に競技力の向上を図るための専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かなアスリートや指導者を目指す人。
2. 競技スポーツ選手の身体ケアやコンディショニング等に関心をもち、スポーツ選手をサポートするための専門的な知識と技能を身につけた人間力豊かな指導者を目指す人。
3. 学校体育に関心をもち、こどもたちの体育・スポーツ活動を安全・安心に指導するための専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かな指導者を目指す人。

受験生に求める学修内容と入試における評価観点

本学科で学ぶにあたっては、競技力の向上、スポーツ障害、体育実技指導等、競技スポーツ活動に関する多彩なカリキュラムが展開されることから、受験生には以下のような学力を身につけておくことを望みます。

1. **知識・技能**
多様な人々とのコミュニケーションを通じて協働する際に必要となる国語、英語の基礎的な知識や、身体の構造や機能等を客観的に理解し分析する際に必要となる数学及び生物・化学の基礎的な知識を有していること。また、競技スポーツ活動に関する学修が学びの中心であるため、保健体育の基礎的な知識・技能。
2. **思考力・判断力・表現力**
これまでに学修した知識・技能を活用し、本学科の学修の過程で様々な課題を自ら発見し、解決に向けて探求し、成果等を発信する際に必要となる、思考力・判断力・表現力。
3. **主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**
体育や課外活動で学んだチームワークを活用し、将来の目標を達成するために、自ら主体的に行動し、他者と協力して問題解決を図る態度。
その他、高等学校での授業や課外活動等を通して、競技スポーツ活動に対する関心と意欲を有していることも重要です。

本学科の入試において受験生に求める学力としては、以下の５つの観点で評価します。

1. 「国語、英語、数学及び生物・化学の基礎的な知識」
2. 「保健体育の基礎的な知識・技能」
3. 「思考力・判断力・表現力」
4. 「主体的に行動し、他者と協力して問題解決を図る態度」
5. 「競技スポーツ活動に対する関心と意欲」

栄養科学科（管理栄養士養成課程）

教育の目標と特色および求める人間像

栄養科学科は、『健康づくりのための栄養指導者として豊かな人間性と栄養・運動に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』を教育目標としています。

また、本学科は、栄養士・管理栄養士養成課程並びに栄養教諭免許の取得課程を有するとともに、健康運動実践指導者の資格取得も可能で、将来、病院、福祉施設、学校及び企業（スポーツ関連施設を含む）等において健康指導を行うための栄養や運動に関する高度な専門知識と実践力を身につけるための特色ある教育を展開しています。

そのため、栄養科学科では強い目的意識のもとに次のような志のある人を求めています。

1. 栄養科学に関する高度な専門知識及び技術を身につけ、人々の健康づくりに寄与・貢献できる管理栄養士を目指す人。
2. 栄養と運動・スポーツとの関わりについて関心をもち、将来、スポーツチームやスポーツクラブ等の運動・スポーツの分野で管理栄養士を目指す人。
3. 疾病の予防・治療と栄養との関係について関心をもち、将来、病院や福祉施設等の臨床栄養の分野で管理栄養士を目指す人。
4. 子どもの食育に関心をもち、将来、保育所・幼稚園の栄養士や小・中学校の栄養教諭を目指す人。
5. 食品の調理、加工や機能性成分等に関心をもち、将来、給食現場での食事提供サービスのほか、食品関連企業での品質管理や商品開発等を目指す人。

受験生に求める学修内容と入試における評価観点

本学科で学ぶにあたっては、高等学校までに生物や化学、家庭科などに関連する科目から「ヒトの体の構造と機能」、「物質の構造と性質」、「栄養」などについてしっかりと学んでおくことを望みます。

入学試験では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、以下のような観点で評価します。

1. **知識・技能**

食物や栄養に関する専門的知識や技能を学修するためには、高等学校等の教育課程において幅広く学んでいることが重要です。

入学試験では、栄養科学科で学ぶための基礎となる国語、数学、英語のほか、生物、化学などの基礎知識・技能をどれだけ身につけているかによって判定します。

2. **思考力・判断力・表現力**

栄養指導を行うためには、対象者の健康状態や食事摂取状況等を的確に把握した上で必要な改善・方策について思考・判断し、対象者に対して適切に表現しながら伝える能力が重要です。

入学試験では、これらの思考・判断・表現力等を修得するための基礎的な能力がどれだけ身についているかによって判定します。

3. **主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**

栄養の指導者として社会に寄与・貢献して行くためには、栄養科学に関する専門知識を修得するのみでなく、人々の健康増進や疾病予防に関する課題発見やその解決のために積極的に取り組み、他者と協働して学ぶ姿勢が必要です。

入学試験では、これらに関する専門知識や技能を学ぶために積極的に取り組む姿勢・態度をもっているかどうかによって判定します。

こども健康・教育学科

教育の目標と特色および求める人間像

こども健康・教育学科は、『心身ともに健全な子どもを育てるための指導者・支援者として豊かな人間性と子どもの成長・発達に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』を教育目標としています。
また、本学科は、保育士資格の他に幼稚園・小学校教諭及び中学校教諭（保健体育）の免許取得課程を有する他、テーマパーク・出版・映像など子どもの創造性を育むアミューズメント事業に関わることを目指す学生に対して、こころとからだの発達、子どもを取り巻く社会や環境、子どもの文化、運動や栄養、という幅広い分野の基礎知識を獲得し、将来ある子どもに対して、科学的かつ効果的に指導・支援・制作等ができる高度な専門知識と実践力を身につけるための特色ある教育を展開しています。
そのため、こども健康・教育学科では強い目的意識のもとに次のような志のある人を求めています。

1. 乳・幼児期から児童期における子どもの成長・発達に関心をもち、将来、保育士・幼稚園及び小学校の教員を目指す人。
2. 児童期から青少年期における子どもの成長・発達に関心をもち、将来、小学校及び中学校（保健体育）の教員を目指す人。
3. 子どもの発育・発達に関心をもち、将来、地域における子どもの健康・体育・食育に関する指導者を目指す人。
4. 子どもの創造性を育むアミューズメント事業の企画・制作に関わり、将来、子どもの幅広い成長を支援する職業を目指す人。

受験生に求める学修内容と入試における評価観点

本学科で学ぶにあたって、カリキュラム・ポリシーに沿って設定されている「こども学」、「こころとからだ」、「社会と環境」、「遊び・文化・アミューズメント」、「運動と栄養」、「発達・教育支援」という多様なカリキュラムが準備されていることから、以下の学力を身につけておくことを望みます。
入学試験では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、以下のような観点で評価します。

1. **知識・技能**
高等学校の教育課程を幅広く学修し、学修に必要な基本的な知識・技能を身につけていることを求めます。
入学試験では、こども健康・教育学科で学ぶための基礎となる国語、英語、生物・化学および数学の基礎知識やその他の教科全般についての基礎知識・技能がどれだけ身につけているかによって判定します。

2. **思考力・判断力・表現力**
子どもへの指導や支援等を科学的かつ効果的に行うために、高等学校までに学修した知識・技能を活用し、さらに様々な見方・考え方を働かせて課題を自ら発見し、解決に向けて探求するための基本的な思考力・判断力を身につけ、考えや成果等を発信するための基本的な表現力を身につけていることを求めます。
入学試験では、これらの基本的な思考力・判断力・表現力がどれだけ身についているかによって判定します。

3. **主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**
子どもに関わる現場で活動するためには、自ら主体的に行動するとともに、グループワーク等により他者と協力して問題解決を図る態度を身につけていることを求めます。
入学試験では、将来のある子どもに対して、科学的かつ効果的に指導・支援・制作等の専門知識・技能を学ぶ姿勢・態度及び心構えがあるかどうかによって判定します。

大学院健康科学研究科の建学の理念・教育理念・教育目標等

Ⅰ 学校法人至学館の建学の理念

本学園の建学の理念は『**人間力の涵養**』である。

Ⅱ 教育理念・教育目標

運動・栄養・休養を中心とした真の健康科学についての学問的確立とその応用を図ることによって、より健全で豊かな社会の構築に貢献できる『人間力の形成』を教育理念としている。

具体的な教育目標は、「健康の保持・増進を図るための高度な専門知識と実践力及び人間力を身につけた有能な健康指導者を養成する」ことである。

Ⅲ ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

修士（健康科学）の学位は、大学院学則の定めるところにより所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する（学位規程第５条）。なお、課程修了の判定においては、以下の要件を満たしていることが必要である。

健康に関する諸問題に対して積極的に取り組み、科学的に解決していくための人間力（健康力、知的視力、社会力、自己形成力及び当事者力）を身につけている。

運動・栄養・休養に関する専門的な知識を具体的に応用・実践していくための指導力や研究力を身につけている。

Ⅳ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

本研究科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するために、スポーツ医科学コース、スポーツ指導コース、スポーツ栄養コース、心理・社会コース、学校教育コースを設定する。

学生にはこれらの中から二つのコースを選択・履修させ、学際的な専門知識を身につけさせる。

教育課程は、すべての学生に共通である共通専門教育科目と、専門的に学修・研究するためのコース選択専門教育科目で構成する。

共通専門教育科目には、修士論文作成に向けた研究のノウハウを学修するための基礎的な科目と修士論文を具体的に指導するための科目を配置する。コース選択専門教育科目は後述するそれぞれの専門領域に関して高度な専門知識を身につけるための科目を配置する。

また、開講年次については、講義科目をできるだけ第１年次に配置し、第２年次にはそれらの専門知識を活用して応用・実践や研究を行うための演習及び研究科目を配置する。

なお、修士課程修了のための所要単位は、共通専門教育科目の必修科目（13 単位）、コース選択専門教育科目のうち、２つの科目区分を選択し、その選択した科目区分内のコース必修授業科目の単位を全て修得し、かつ必修科目を含めて、30 単位以上である。

共通専門教育科目とコース選択教育科目の主な内容は以下のとおりである。

共通専門教育科目

共通専門教育科目としては、健康科学を研究する上で必要な方法論を身につけるための健康科学研究デザイン特論Ⅰ＜基礎＞及びⅡ＜応用＞や、健康科学に関するさまざまなデータを分析する力を身につけるためのデータサイエンス特論Ⅰ＜量的＞及びⅡ＜質的＞、現代社会の今日的な話題について健康科学の視点から理解するための健康科学カレントトピックス特論、修士論文作成に向けた先行研究の調査や実験技術の修得等及び研究テーマ・研究計画の立案するための健康科学演習、実際に調査研究のデータ取得・処理及び考察と論文作成を進めるための健康科学研究を開設する。

コース選択専門教育科目（スポーツ医科学コース）

人体の構造及び機能と運動との関連を明らかにするために、スポーツ医学、運動生理学、バイオメカニクスの高度で専門的な知識と技能を修得するとともに、健康運動に関する諸問題に対して科学的に指導及び研究できる能力を身につけるための科目を開設する。

コース選択専門教育科目（スポーツ指導コース）

スポーツ競技に必要な技術や体力を向上させるために、選手やアスリートに対して効果的な指導やトレーニング方法を提供するための高度で専門的な知識と技能を修得するとともに、コーチングやトレーニングに関する諸問題に対して科学的に指導及び研究できる能力を身につけるための科目を開設する。

コース選択専門教育科目（スポーツ栄養コース）

スポーツ競技でのパフォーマンス向上や傷害の予防、回復に必要な栄養素の摂取や食事の仕方の指導のための高度で専門的な知識と技能を修得するとともに、スポーツ栄養に関する諸問題に対して科学的に指導及び研究できる能力を身につけるための科目を開設する。

コース選択専門教育科目（心理・社会コース）

病気の予防や治療だけでなく、身体的・心理的・社会的な健康を維持・増進し、健康的な生活を促進するための高度で専門的な知識と技能を修得するとともに、健康に関する諸問題に対して心理学的あるいは社会学的に指導及び研究できる能力を身につけるための科目を開設する。

コース選択専門教育科目（学校教育コース）

教育効果の高い授業を展開できる教育技術を修得し、児童・生徒の学習意欲を引き出し、自己実現を促す指導を行うためのコミュニケーション能力を修得するための高度で専門的な知識と技能を修得するとともに、学校教育に関する諸問題に対して適切に対応できる能力を身につけるための科目を開設する。

Ⅳ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

至学館大学大学院健康科学研究科は、1992 年に日本で初めて健康科学を専門として誕生した研究科です。

本研究科は、運動・栄養・心身の休養を中心とした真の健康科学についての学問的確立とその応用を図ることによって、より健全で豊かな社会の構築に貢献できる「人間力の形成」を教育理念としています。

具体的な教育目標は、健康の保持・増進を図るための高度な専門知識と実践力及び人間力を身につけた有能な健康指導者を養成することです。

本研究科では、上記の理念・目標を理解し、健康に関する諸問題に対して積極的に取り組み、科学的に解決していくための人間力とともに、高度で専門的な知識と技能を身につけ、健康指導者・研究者を目指す人を求めています。

なお、本研究科で学ぶにあたっては、健康に関する基礎的な知識を有するとともに、運動、栄養、心身の休養等について、いずれかを大学等で学修していることを求めています。

2013 年 初版発行
2017 年 第二版発行
2021 年 第三版発行
2025 年 第四版発行